

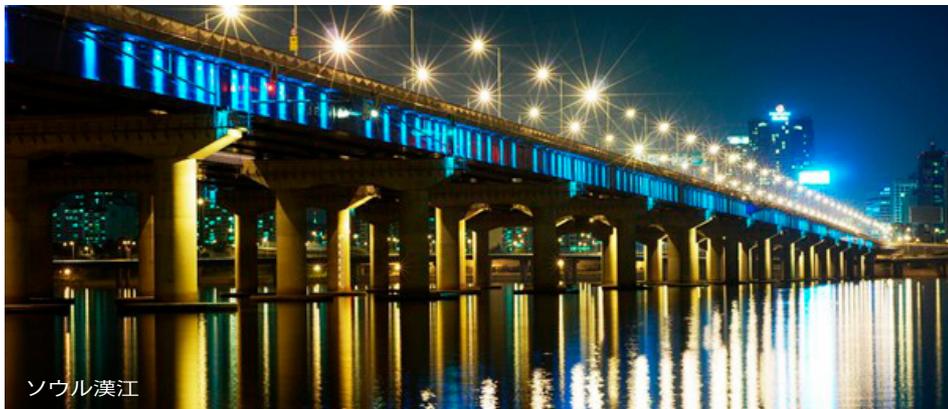
## 「初心忘れずに」 教えてくれた友人

「あなたは大切な人がいますか、それは誰ですか」と聞かれたら、私はためらいなく同じ大学に通う日本人女子大学生Aさんと答える。

韓国で日本語を勉強し、2年前、関西学院大学に入学した。最初は知り合いは一人もいなくて、助言をしてくれる人もいなかった。日本語を勉強したとはいえ、関西弁がわからず、三田市内の家電量販店でドライヤーを買うのに1時間もかかったこともある。日常生活さえ困り、留学を後悔するようになった。

「何のために外国で苦労しているんだろう。帰りたい」と思っていた時に、支えてくれたのがAさんである。基礎演習のゼミで一緒になり、合宿で仲良くなった。2人は、毎日のように語り合った。Aさんも高校時代に留学した経験があって、自分の悩みを聞いて、様々なアドバイスをしてくれた。

その中で、最も記憶に残っている言葉は「何のために来たかを思い出してみて」だ。その言葉によって、留学を決心した時の志を思い起こし、前向きな生活を目指せるようになった。Aさんと一緒にいることで日本語の言葉遣いも豊かになり、友達も紹介してもらい、友人も一人ずつ増えていった。今の学校生活は「国に帰りたい」などと思わないぐらい楽しい。生活に不便さを感じ



ソウル漢江

ないようにしたのはAさんがいたからこそである。何十年たってもAさんのことや、その友達のことは忘れないだろう。

【曹勝宙】

## 「学びに遅いはない」 気づかせてくれた恩師

韓国・ソウルの高校に入って進路について悩んでいた時、塾の中国語の先生が言ってくれた言葉を、今もよくかみしめたい。

高校1年の時、担任の先生との確執があり、中途退学せざるを得なくなった自分は転校後、大学の入試競争の中で授業についていけなかった。退学後、気持ちが落ち込んでいたそんな頃、弁当配達アルバイトをした。中国語の塾へ弁当を配達に行ったことをきっかけに金先生と知り合った。

さりげなく教室の中を見ていたら金先生は「中国語を習ってみないか」と声をかけてくれた。そして「週5回、1時間のレッスンを8,000円でどうか」と誘ってくれた。最初は、イー、アール、サンといった数字の簡単な発音さえ分からず、小学1、2年生の子供達と一緒に学ぶことを恥ずかしいと思った。

しかし、金先生は「遅い事を恐れるな、立ち止まることを恐れる」と励ましてくれた。その言葉に励まされ、思い直すことができた。そして、すべての学習に気後れすることなく勉強できるようになった。

どんな時も学ぶことに遅いことはない

瀋陽の北陵公園



いうアドバイスは、深く心に響き、困難に出会った時はいつも大きな力を与えてくれる。

【ユン・テック】

## 「『自分の力』信じよ」 教えてくれた友人

5年前、中国の秦皇島という町から日本に留学した。この間、一番忘れられないのは、天津出身で、日本語学校で知り合ったKさんだ。Kさんの励ましがあってからこそ、自分が目指す道に進むことができた。

Kさんは、いつも楽しそうでも、自分が困っていることがあっても、それを見せずに笑い話をしたり、お笑い芸人を真似したりして、皆を笑わせた。将来はファッションデザイナーになり、自分の洋服ブランドを作るのが夢だ。Kさんは「自分には潜在力があることを信じる。周りの人に無理だとよく言われるかもしれないが、自分の力を信じ、前に向かうことが大切だ」と言って、自分を励ましてくれた。

辛かった時、困った時は、Kさんの言葉を思い出し、やる気が出て、色々な困難を乗り越えるようになった。Kさんの言葉のおかげで、自分も関西学院大学に入ることができた。Kさんは自分で言った通り、デザインを専攻した。昨年、卒業後、日本でトップのデザイン会社に勤めているそうだ。Kさんは夢に向かって、一步一步進んでいる。

自分は今、就職活動の準備で忙しい。この先も、Kさんの言葉を胸に刻み、自分の力を信じて、前に進みたい。

【馬立国】

## 「働く意味」学ばせてくれた インターンシップ先の社長

韓国ソウルから関学に入って2年目の夏休みに「大学コンソーシアム神戸」の留学生インターンシップに参加した。その時、ネイル用品総合販売会社のT社長が、働くことの意味を考えるきっかけを教えてくれた。

5日間、現場で実習し最後にプレゼンテーションをするテーマ型のインターンシップで、テーマは「人はなぜ働くのか」だった。それまでの自分は働くことの意味を「単純にもうけないと生きていけないから」「衣食住のため」と短絡的な考えしか持っていなかった。また、いつも自分を支えてくれる親が何のために働くのかさえ、あまり深く考えてもいなかった。

しかし、インターンシップに行かせてもらい、社長をはじめ、社員の方々のアドバイスや現場に同行するなどして、社員の仕事に対する情熱や姿勢を学んだ。

いつも会社の仕事で忙しい韓国の父に電話で「お父さんはなぜ働くの」と今まで聞いたこともない質問をすると、父は「お前と家族を幸せにして、笑顔を守るためだ」と答えた。

いつも無口で怖かった父だが、その時初めて親子が本音で語り合い父の気持ちを知ることができた。

このことがきっかけで父との距離が縮まり、今は誰よりも最高の相談相手になった。金銭を得るためだけに働く。それだけではやりがいはい生まれない。働くことを通して、

# 人生を変えた人々と言葉

## 静かに見守ってくれた日本語塾の教師

韓国・釜山の高校1年生の時、母の勧めで日本語の塾に通うことになった。その時に出会ったのが30代の日本語の女性教師、Kさんだ。そして、塾に通い始めることによって、少しずつ日本留学への意志が固まってきた。

しかし、日本への留学準備は、出来ておらず、勉強も大変で、塾に行く回数が少なくなった。自分の性格は、他の人に強制的に言われるのが苦手であり、逆に反対の行動を取りたくなる。普通の先生なら、学生が塾に来ないことが続く「何で来ないの」「来ないとだめだよ」と言うはずだった。

ところが、Kさんは自分の負担が大きい

ことを理解してくれ、自発的に勉強を始めるとまで何も言わずに待ってくれた。

結果的に、1カ月間は塾を休んでしまったが、その後、気持ちを切り替え、留学準備にかり、関学に合格することができた。

我々は、生まれて以来、小学校から大学まで数え切れない先生に出会う。それとは別に、大変なときに、そばで心強く支えてくれる両親、家族と友人たちも先生に含まれるのではないだろうか。

韓国では5月15日が「先生の日」と指定されている。その日になると、必ずK先生が思い浮かぶ。

【ナム・ユジョン】

## 「勇気出せ」 励ましてくれたクラスメート

5年前に中国の山東省から日本に留学し、2年間大阪の日本語学校で勉強していた。そこで、クラスメートの牛さんという中国人の女性と知り合った。大学に進学するとき、彼女の「実力より、勇気を出すことが先だ」という言葉のおかげで、関西学院大学に受験することを決意し、進学することができた。

留学生が日本の大学に進学するために必要な留学生試験が終わって、進学先を決めるときに、自分は日本語のレベルに自信がなく、関学を受験するかどうかわ迷っていた。留学生試験の成績はぎりぎり関学の受験レベルを満たしたが、願書の書き方や面接などは先生に「まだ難しい」と言われた。

そんな関学をあきらめようと思っていたある日、牛さんにそれを話し、意見を聞いた。「関学は劉さんが一番行きたい大学でしょう、やめたら悔しくないですか」と問われた。「悔しいけれど、先生に難しいと言われたし、受験料も無駄になるし」と返事した。すると、牛さんは「実力より、勇気を出すことが先。試してみないと、可能性はゼロだよ。後悔したくなかったら、勇気を出して、頑張ってください。この言葉で、受験することを決意でき、関学に合格した。

今でも迷った時や自信を失った時に、この言葉を思い出す。あの時に励ましてくれた牛さんに言葉で言い尽くせないほど感謝している。

【劉双達】

## 「もっと勉強してよい大学に」 発破かけてくれた先輩留学生

中国の上海市から日本に来た約5年前、神戸の日本語学校の寮に住み、同じ中国出身の一歳年上の男性、Aさんと同じ寮で過ごした。その1年半に受けた親切が今も心に残る。

寮は3LDKで、3人が別々の部屋に住んだ。人生で初めて家族以外の人と同じマンションでの暮らしだった。初対面の時、寮のルールなどを真剣に説明してくれたAさんは、一見、付き合いにくそうだった。しかし、実際は親切な人で、やがて、何でも話せるようになった。

Aさんは色々分かっていなかったことを教えてくれて、随分助かった。休日は一緒に運動をしたり、ビデオゲームをして、仲良くなった。日本に来た初めての誕生日には、留学生仲間が集まって、パーティーを開いてくれた。Aさんは多くの食べ物や飲み物を用意して、おいしい料理も作ってくれた。それは自分にとって素晴らしいプレゼントに思えた。

1年が過ぎ、進学に自信がなかったが、Aさんは「もっと日本語を勉強して、良い大学に入ろう」と励ましてくれた。その言葉で、頑張れると思いつき、留学生試験をパスし、関学の受験に合格した。Aさんは大阪市立大学の大学院に入るため、大阪に引っ越し、会う機会が少なくなったが、彼が教えてくれたことは、いつまでも心の支えになっている。

【周沛琦】



海雲臺の夜景